

CS-428

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書はATENジャパン株式会社において、CS-428 取り扱いの便宜を図るため、製品同梱 英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、製品同梱の英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術サポート部

TEL :03-5323-7178

MAIL :support@atenjapan.jp

2008年9月12日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く変更されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニタ、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応となりますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 納品日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障または破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証のお申し込み手順】

弊社の製品保証規定に従い保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

- (1) **不具合の確認**……製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口へ連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。
- (2) **本規定に基づく製品保証のご依頼**……(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『製品納品日が証明できる書類』を用意して、製品を購入された販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。
- (3) **製品の発送**……不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品／液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～3 年	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～2 年	無償修理
	2 年以上	有償修理※2

※1…製品納品日から30 日以内に弊社または販売店に申告を頂いた不具合を初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途お問い合わせください。

※ケーブル類、電源アダプタ、その他レールキット等のアクセサリ類はDOA・初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL(生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。

※本保証期間は2007年9月1日以降にご購入された場合に適用されます。それ以前に購入された製品については、1年間の保証となります。

【補足】

- ・ 本規定はATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- ・ ケーブル類・電源アダプタは初期不良対応に準じます。
- ・ 初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。
- ・ 製品保証を受けるにあたり、製品の納品日が証明できない場合は製品のシリアルナンバーから判別した製造日を起算日とします。ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、全て有償修理とさせていただきます。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業推進部 TEL:03-5323-7170 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術サポート部 TEL :03-5323-7178 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

FCC	8
RoHS	8
SJ/T 11364-2006	8
同梱品	9
本マニュアルについて	10
マニュアル表記について	11
第1章 はじめに	12
製品概要	12
特長	13
必要システム構成	14
コンソール	14
コンピュータ	14
ケーブル	14
製品各部名称	15
フロントパネル	15
リアパネル	16
第2章 ハードウェアセットアップ	17
スタッキングとラックマウント	17
単体接続	19
カスケード接続	20
第3章 基本操作	22
ホットプラグ	22
シャットダウンと再起動	22
ポートIDの番号割り当て	23
ポート選択方法	23
第4章 OSD 操作	24
OSD 概要	24
OSD ナビゲーション	26
OSD メイン画面 項目	27
OSD 機能	27
F1 HELP	28
F2 EDIT	28
F3 LIST	29

F4 SCAN	30
F5 ADM	31
F6 SET	34
F7 QV	37
F8 Out	37
付録	38
製品仕様	38
OSD ファンクション工場出荷時設定	39
起動時のセルフテスト	39
トラブルシューティング	40

FCC

本製品はFCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則のPart15に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。

この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

SJ/T 11364-2006

部件名称	有毒有害物質或元素					
	鉛	汞	鎳	六价鉻	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

- : 表示该有毒有害物質在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。
- : 表示符合欧盟的豁免条款, 但该有毒有害物質至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。
- ×: 表示该有毒有害物質至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。



同梱品

CS-428 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ CS-428 KVM スイッチ ×1
- ◆ コンソールケーブル(2L-1701S) ×2
- ◆ 電源アダプタ ×1
- ◆ ラックマウントキット ×1
- ◆ 英語版ユーザーマニュアル ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、CS-428 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

第1章 はじめに: CS-428 を紹介します。特長および機能の概要および製品各部名称について説明しています。

第2章 ハードウェアセットアップ: CS-428 ハードウェアセットアップ、スイッチを単独で使用する場合、またはカスケード接続して使用する場合の手順について説明しています。

第3章 基本操作: CS-428 の機能概要および操作方法について説明しています。

第4章 OSD 操作: CS-428 の OSD (オンスクリーンディスプレイ) の詳細内容、および操作方法について説明しています。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明しています。

第1章 はじめに

製品概要

CS-428 は 4 ユーザー/8 ポートのマルチユーザーKVM スイッチです。本製品によって 4 人のユーザーがそれぞれの PS/2 キーボード、PS/2 マウス、モニタのコンソールから 8 台のコンピュータを切り替えて独立して操作することが可能です。また CS-428 はカスケード接続に対応しており、CS-138A、CS-9138、CS-128A、CS-124A を CS-428 の子機として併用することによって最大 64 台までのコンピュータを管理することができます。

CS-428 のセットアップは各ケーブルを適切なポートに接続するだけですので、非常に簡単で時間もかかりません。ソフトウェアやドライバのインストールも不要、互換性の問題に悩まされることもありません。PS/2 インターフェースに対応した様々な OS で使用することができます。

CS-428 は OSD (オンスクリーンディスプレイ) 機能を持っています。メニュー選択形式で操作する OSD により、接続されたコンピュータに簡単にアクセスできます。また便利なクイックビュースキャン機能により、特定のポートのみを自動的に表示することも可能です。

CS-428 は 2 レベルのアクセス権限 (アドミニストレーター/ユーザー) を設定することができるので、セキュアなオペレータ管理ができます。またマイク・スピーカーのオーディオ入出力にも対応しているので、オーディオ機能が必要なシステムにおいても機能を発揮します。

CS-428 の導入により、複数のオペレータ・複数のコンピュータのマルチアクセス環境を構築できるため、下記のような効果を得ることができます。

- 1) それぞれのコンピュータにキーボード、マウス、モニタを購入する費用を削減
- 2) 余分なスペースを取らず、スペースの有効利用が可能
- 3) 省電力
- 4) コンピュータを操作するたびに移動しなければならないという煩雑さの解消

特長

- ◆ 4 ユーザー/8 ポートのマルチユーザーマトリックス型 KVM スイッチ
- ◆ 対応 KVM スイッチにより最大 64 台のコンピュータを接続可能
- ◆ 各コンソールは独立操作可能
- ◆ 2 レベルアクセス権限—アドミニストレーター/ユーザー
- ◆ アドミニストレーターはどのコンピュータにも制限無しにアクセス可能
- ◆ ユーザーメニューに表示されるコンピュータリストは、そのユーザーがアクセス権限を持つコンピュータのみ
- ◆ 分かりやすい OSD (オンスクリーンディスプレイ) メニューによる操作
- ◆ カスケード接続時には OSD のコンピュータリストメニューを自動的にツリー形式で表示
- ◆ OSD 表示サイズはコンピュータ解像度に合わせて自動調整
- ◆ ホットプラグ対応—コンピュータの増設・削減時に KVM スイッチの再起動は不要
- ◆ オートスキャン対応
- ◆ VGA 解像度: 最大 1,920×1,440、DDC2 対応
- ◆ スクロールホイール付き PS/2 マウス対応
- ◆ マイク・スピーカーのオーディオ入出力対応
- ◆ 付属のスタッキングパッドにより積み重ね可能
- ◆ ラックマウントキット同梱—19 インチシステムラックへ搭載可能

必要システム構成

コンソール

- ◆ 接続するコンピュータの解像度に適したVGA、SVGAまたはマルチシンク対応モニター
- ◆ PS/2 マウス
- ◆ PS/2 キーボード
- ◆ マイクロフォンおよびスピーカー(オプション)

コンピュータ

接続するコンピュータは以下の装置を搭載している必要があります。

- ◆ VGA、SVGA またはマルチシンクカード
- ◆ ミニ DIN 6 ピン PS/2 キーボード
- ◆ ミニ DIN 6 ピン PS/2 マウスポート

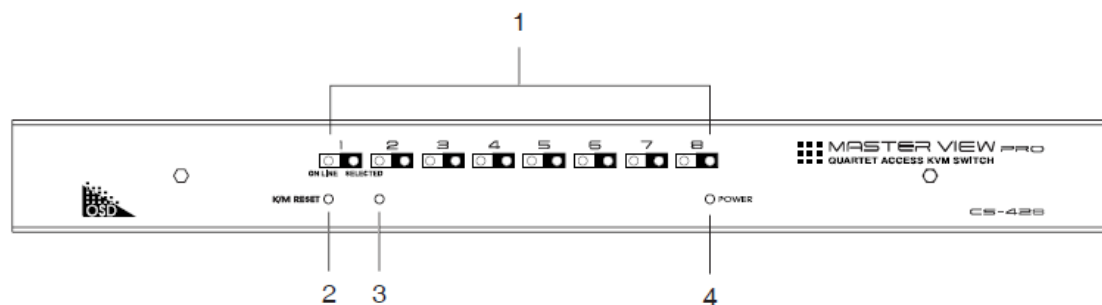
ケーブル

規格外のケーブルを使用すると、接続機器を破損することや、機器の性能を低下させることがあります。理想的な状態でデータ転送を行うためにも、またシステムのレイアウトを単純化させるためにも、以下のケーブルをご使用になることを推奨いたします。

名称	型番
コンソールケーブル(コンソールポート3 および 4)	2L-1701S
PS/2 KVM ケーブル	2L-1701P (1.8m)
	2L-1703P (3m)
	2L-1705P (5m)
	2L-1710P (10m)

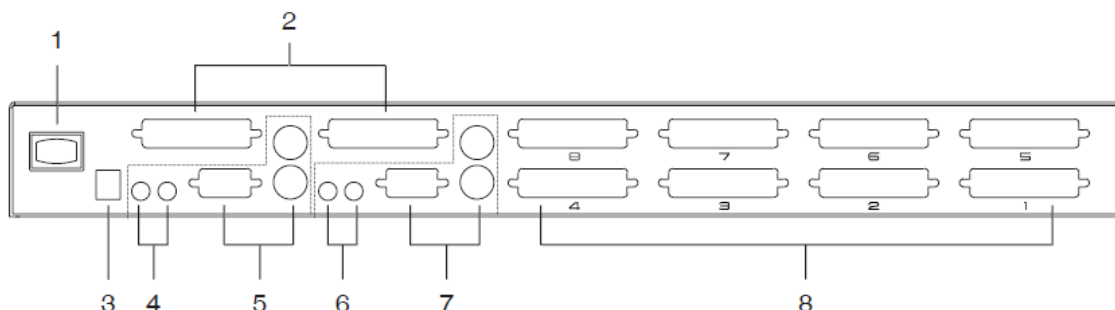
製品各部名称

フロントパネル



No.	名称	説明
1	ポート LED (オンライン/選択 LED)	<p>ポート LED は、対応するポートに接続されたコンピュータの状態を表示します。各ポートがオンライン LED および選択 LED の 2 つを持っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ オンライン LED (左側) が点灯しているときは、そのコンピュータが電源オンであることを示しています。 ◆ 選択 LED (右側) が点灯しているときは、そのコンピュータが KVM でコンソールとして選択されていることを示します。
2	キーボード/マウス リセットボタン	キーボード/マウスの動作がおかしいときは、このリセットボタンを押してください。
3	サウンド孔	KVM のビープ音のための孔です。
4	電源 LED	CS-428 の電源がオンになっているとき、青色に点灯します。

リアパネル



No.	名称	説明
1	電源スイッチ	ロッカー型の電源スイッチです。
2	コンソール 3 および コンソール 4 コネクタ	同梱のコンソールケーブルを使用して、コンソール 3 および 4 で使用するデバイス(キーボード/マウス/ディスプレイ/マイク /スピーカー)を接続します。
3	電源ジャック	同梱の電源アダプタのプラグを接続してください。
4	コンソール 2 オーディオポート	コンソール 2 で使用するオーディオデバイス(マイク/スピーカ ー)を接続します。
5	コンソール 2 KVM ポート	コンソール 2 で使用するデバイス(キーボード/マウス/ディス プレイ)を接続します。
6	コンソール 1 オーディオポート	コンソール 1 で使用するオーディオデバイス(マイク/スピーカ ー)を接続します。
7	コンソール 1 KVM ポート	コンソール 1 で使用するデバイス(キーボード/マウス/ディス プレイ)を接続します。
8	KVM ポートセクション	対応 KVM ケーブルを使用して、コンピュータを接続します。

第2章 ハードウェアセットアップ



今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピュータの電源ケーブルも抜いてください。

スタッキングとラックマウント

CS-428 の設置は据え置き型にする方法と、19 インチシステムラックへマウントする方法の2種類があります。それぞれの設置作業方法は下記をご覧ください。

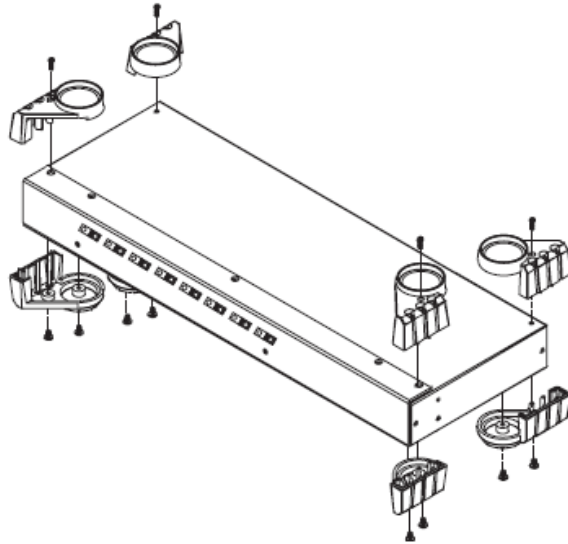
・スタッキング(据え置き型)

製品出荷時に、スタッキング用の樹脂製ブラケットが取り付けられています。複数台をスタッキングする場合には、ブラケットで上下積み重ね可能になっていますので、ブラケットをかみ合わせて設置してください。

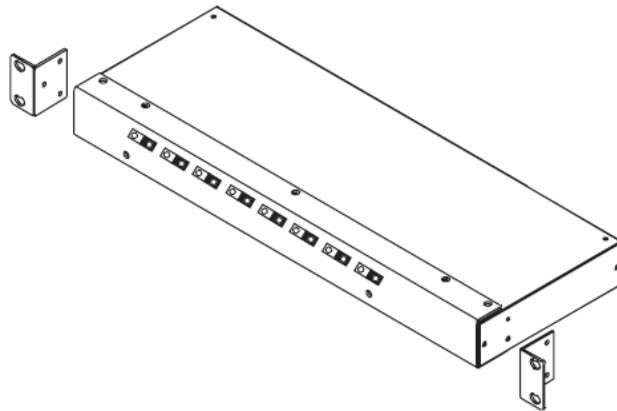
・ラックマウント

CS-428 は 19 インチシステムラックの 1U サイズでマウントすることが可能です。作業は下図を参考にしながら進めてください。

1. 製品の四隅にネジ止めされているスタッキング用のブラケットを取り外してください。



2. 製品に同梱されているラックマウントキットのネジを使用して、製品フロントパネル側面に L 字ブラケットをネジ止めして下さい。



3. ラックの適切な位置にネジ止めしてください。ラックへマウントする際に使用するネジは製品に同梱されていないので、ラックに適したネジを別途ご用意ください。

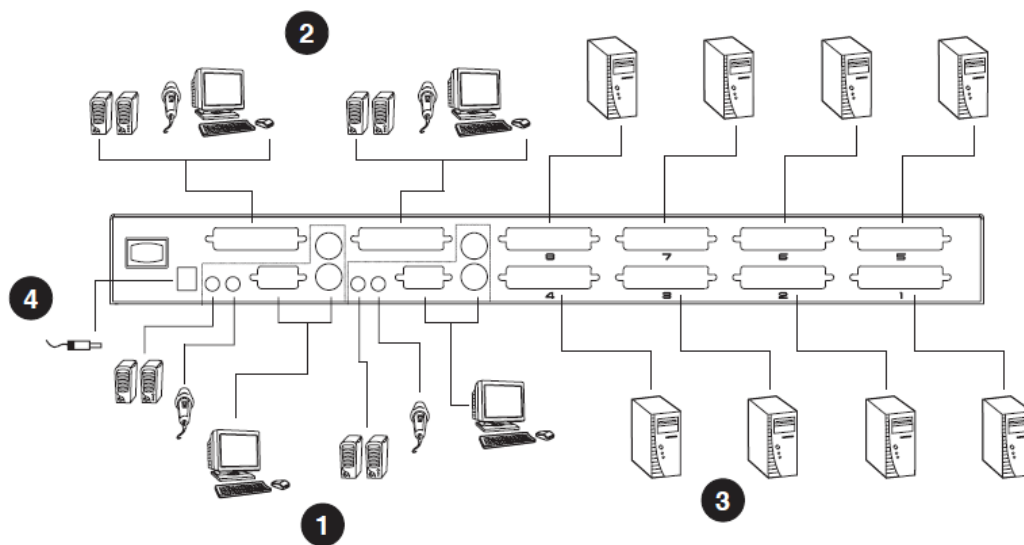
単体接続

KVM スイッチをカスケード接続せずに、CS-428 を 1 台で使用する場合は下記の手順に従って作業を行ってください。

1. コンソール 1、2 で使用するキーボード、マウス、モニタおよびマイク、スピーカーを CS-428 リアパネルのコンソールポートに接続してください。

注意: マイクとスピーカーの使用はオプションです。

2. 同梱のコンソールケーブルをコンソール 3、4 に接続してから、コンソール 3、4 で使用するキーボード、マウス、モニタおよびマイク、スピーカーをコンソールケーブルの対応するコネクタに接続してください。
3. 対応する KVM ケーブルを使用して、コンピュータを接続してください。
4. 同梱の電源アダプタをコンセントに接続してから、電源プラグを CS-428 リアパネルの電源ジャックに接続してください。



5. CS-428 の電源スイッチをオンにしてください。

注意: 電源がオンになると CS-428 は起動セルフテストを行います。もし異常が発生した場合には、ポート LED 1~4 が繰り返し点滅します。

6. 接続されたコンピュータの電源をオンにしてください。

注意: CS-428 の電源がオンになったことを確認してから、コンピュータの電源をオンにしてください。

カスケード接続

8 台より多くのコンピュータを CS-428 で一元管理したい場合には、対応する KVM スイッチを CS-428 のコンピュータ側ポートにカスケード接続して使用することができます。この方法により最大 64 台のコンピュータを接続可能になります。カスケード接続する場合は下記の手順に従って作業を行ってください。

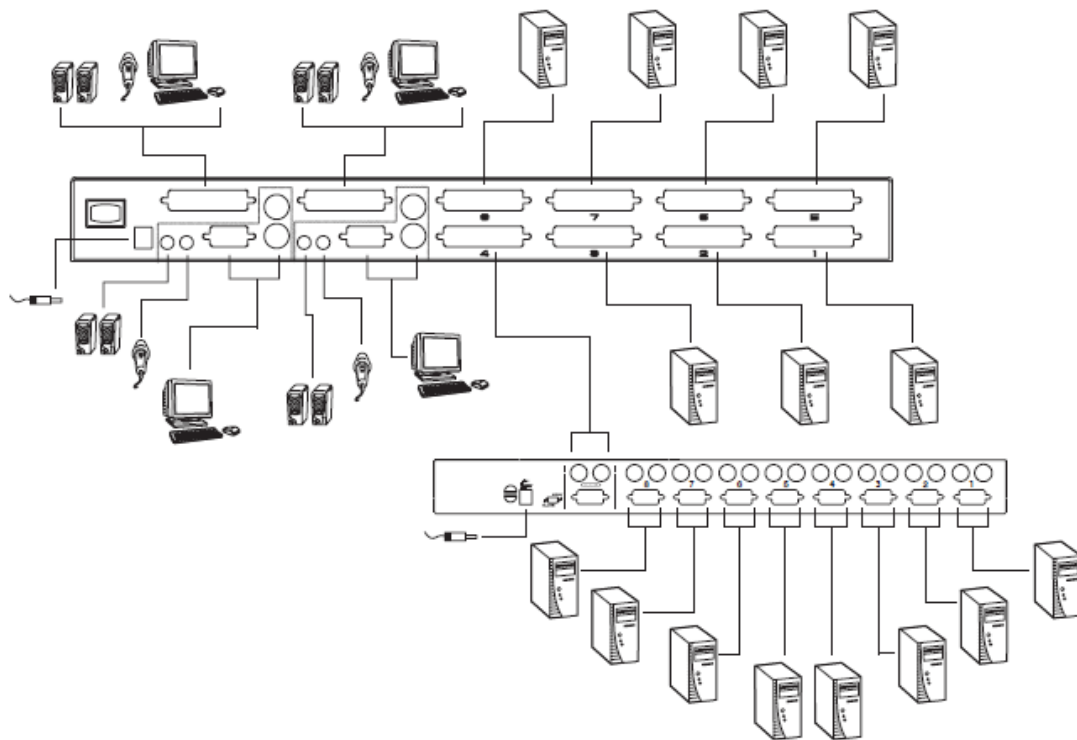
注意:

1. カスケード接続に対応する CS-138A、CS-9138、CS-128A、CS-124A が使用可能です。
2. カスケード接続は親機になる CS-428 を含め、2 段階まで可能です。

1. 接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピュータの電源ケーブルも抜いてください。
2. CS-428 対応の KVM ケーブルを使用して、CS-428 のコンピュータ側ポートとカスケードの子機になる KVM スイッチのコンソールポートを接続してください。
3. KVM スイッチに対応する KVM ケーブルを使用して、コンピュータを接続してください。
4. 環境に応じて 1.~3. の作業を繰り返してください。
5. 親機 CS-428 の同梱電源アダプタをコンセントに接続してから、電源プラグを CS-428 リアパネルの電源ジャックに接続してください。

6. 子機 KVM スwitch の同梱電源アダプタをコンセントに接続してから、電源プラグを KVM スイッチリアパネルの電源ジャックに接続してください。
7. 親機 CS-428 の電源をオンにしてください。
8. 子機 KVM スwitch の電源をオンにしてください。
9. 接続されたコンピュータの電源をオンにしてください。

注意: すべての KVM スwitch の電源がオンになってから、コンピュータの電源をオンにしてください。



第3章 操作方法

ホットプラグ

CS-428 はホットプラグ対応製品です。コンピュータの増設・削減時などでも、CS-428 や他のコンピュータをシャットダウンすることなく作業をすることが可能です。ホットプラグ作業は下記の手順に従ってお使いください。

1. 外した KVM ケーブルは元のポートに戻してください。
2. マウスの抜き差しを行う場合は、同じ型番のマウスを使用してください。
3. コンソールとして使用しているキーボード/マウスの抜き差しを行ったあと、万が一キーボード/マウスの動作がおかしくなった場合は、製品フロントパネルのリセットボタンを押して**キーボード/マウスリセット**を行ってください。

シャットダウンと再起動

KVM スイッチのシャットダウンや再起動が必要になった場合は、以下の手順で作業を行ってください。

1. KVM スイッチに接続されているすべてのコンピュータをシャットダウンします。カスケード接続している場合は、その子にあたる KVM スイッチに接続されたコンピュータもすべてシャットダウンしてください。

注意: キーボード起動機能をご利用のコンピュータがある場合は、シャットダウンした後で、そのコンピュータの電源コードを抜いておく必要があります。

2. コンピュータをすべてシャットダウンしたら、KVM スイッチの電源をオフにしてください。シャットダウン後 10 秒以上待ってから、KVM スイッチの電源をオンにしてください。カスケード接続している場合は、親機の KVM スイッチから電源を入れてください。
3. すべての KVM スイッチに電源が入ったのを確認したら、接続されている各コンピュータの電源をオンにしてください。

ポート ID の番号割り当て

CS-428 の KVM ポートにはそれぞれユニークなポート ID が割り振られます。

カスケード接続している場合のポート ID は、カスケード接続の親機のポート番号と、子機のポート番号から構成されている番号です。ポート ID の最初の部分は親機の KVM スイッチのポート番号を表し、後ろの部分は子機のポート番号を表しています。例えば、**親機の 3 番ポート**に接続された**子機の 8 番ポート**に接続されたコンピュータのポート ID は **3-8** となります。

注意: KVM スイッチのポート番号は製品リアパネルに表示されています。

ポート選択方法

CS-428 のポート選択は、メニュー選択形式の便利な OSD (On Screen Display) メニューから行います。OSD の操作方法については次章で説明します。

第4章 OSD 操作

OSD 概要

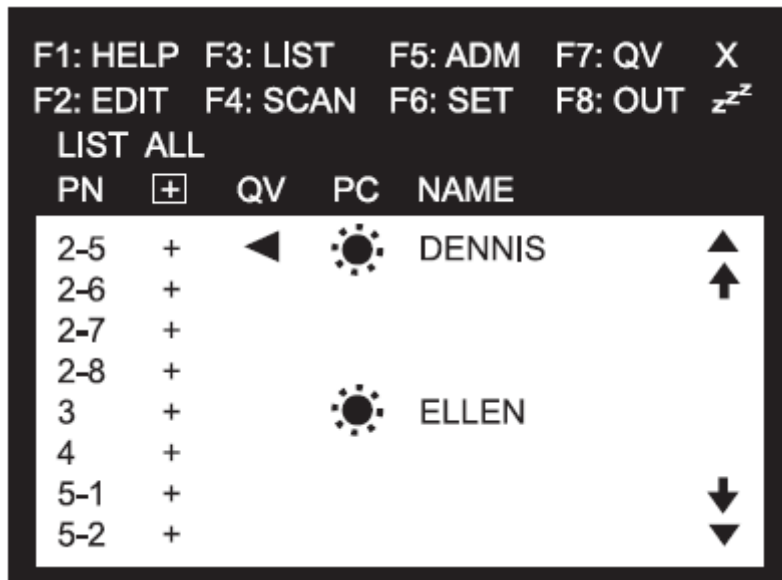
OSD (On Screen Display) は、メニュー選択形式の便利なユーザーインターフェースです。コンピュータの切り替え、設定などすべての操作を OSD から行います。OSD メニューの呼び出しは、[Ctrl]キーの2度押しを行います。

-
- 注意:**
1. [Ctrl]キーはキーボードの同じ側(左側、または右側)を2度押ししてください。
 2. [Ctrl]キー操作がコンピュータで使用する他のアプリケーションと競合する場合は、設定を変更して代替キーとして[Scroll Lock]キーを使用することもできます。詳細は P. 34 をご参照ください。
-

セキュリティの面から、OSD にログインするにはパスワードが設けられており、Administrator/User の2レベルのユーザー権限があります。OSD 呼び出し操作を行うと、まずパスワード入力画面が表示されます。

KVM スイッチの初回起動時、パスワードは設定されていません。ここで[Enter]キーを押すことによって、すべてのコンピュータポートへのアクセスと KVM スイッチの諸設定が可能な Administrator 権限で OSD にログインします。

OSD にログインすると、下記のようなメニュー画面が表示されます。



-
- 注意:**
1. 図は Administrator 権限時の画面例です。User 権限の場合は、**F2:EDIT** と **F5:ADM** 機能の実行キーが表示されません。
 2. OSD メニューは図のようにリスト表示されます。項目の選択に用いるハイライトバーは前回の表示位置を記憶しています。
-


OSD ナビゲーション

- ◆ OSD 画面を閉じる場合は、OSD 画面の右上に位置する×印をクリック、もしくは[Esc]キーを押してください。
- ◆ ログアウトする場合は、メイン画面の上に位置する F8:OUT をクリック、もしくは OSD 画面右上の「ZZZ」マークをクリック、もしくはキーボードで[F8]キーを押してください。
- ◆ リスト表示を 1 行ずつ上下へ移動する場合は、三角の印(▲▼)をクリック、もしくはキーボードの上下の矢印キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ リスト表示を 1 ページずつ上下へ移動する場合は、上下の矢印(↑↓)をクリック、もしくはキーボードの[Page Up][Page Down]キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ ポートを切り替える場合は、選択先のポートをダブルクリック、もしくはハイライトバーを移動させ[Enter]キーを押してください。

-
- 注意:**
1. プライベートモード (P.37 参照) で動作しているポートを他のユーザーが選択した場合は、当該ポートがプライベートモードであるメッセージが表示され、コンソール画面はブランク(無表示)、かつキーボード/マウス操作はできません。
 2. 他のユーザーがすでにアクセスしているポートを選択した場合は、画面に他のユーザーが使用中である旨のメッセージが表示されます。コンソール画面を見ることはできますが、キーボード/マウス操作は、先にアクセスしているユーザーの操作権限が失効するまで行うことができません。
 3. カスケード接続時、子機に接続されたコンピュータにユーザーがアクセスしている場合は、他のユーザーはその子機自体へアクセスできません。(操作バスの問題) 親機に直接接続されたコンピュータや、他のポートに接続された子機 KVM スイッチにはアクセス可能です。
-

- ◆ OSD の任意の機能の実行後、メニューは自動的に 1 段階上の状態に戻ります。

OSD メイン画面 項目

項目	説明
PN	ポートID 番号を表示しています。KVMスイッチのコンピュータ側ポートは個別の番号を持っています。ハイライトバーを移動し[Enter]を押すと、画面がそのポートに接続されたコンピュータに切り替わります。
	このマークが表示されているポートには、そのユーザーがアクセス可能であることを示します。ユーザー毎の各ポートへのアクセス権は、アドミニストレーターが設定します。詳細は P.37 をご参照ください。
QV	クイックビュー時に表示するポートを選択します(クイックビューポート設定の詳細は、p.37 を参照)。クイックビューポートとして選択されているコンピュータには矢印が表示されます。
PC	ポートに接続されたコンピュータの電源がオンのとき、この太陽マークが表示されます。
Name	各ポートに対して名前を登録することができます(ポート名前編集の詳細は、p.29 を参照)。

OSD 機能

KVM スwitchの諸設定および接続されたコンピュータの管理を行う OSD 機能について説明します。OSD の各機能によって、任意のポートへダイレクトに切替、指定したポートのみをスキャン、指定したリストのみ表示、クイックビューポートの設定、ポート名目の設定、OSD の設定等ができます。

OSD の各機能にアクセスするには以下の手順で操作してください。

1. メイン画面の上部にあるファンクションの文字を直接クリックしてください。
2. サブメニューが表示されますので、選択しダブルクリック、もしくはキーボードからハイライトバーを移動、選択し[Enter]キーを押します。
3. [Esc]キーを押すと、1 段階上のメニューに戻ります。

F1 HELP

HELP 機能は OSD 操作の概要を説明します。OSD メインメニューに戻るには画面右上の×印をクリックするか、[Esc]キーを押してください。

F2 EDIT

この機能は Administrator 権限専用の機能です。ポートに接続されたコンピュータを判別し訳するため、ポートには名前を付けることができます(ポートネームと呼びます)。Administrator ユーザーのみが、ポートネームを作成したり、編集したり、削除したりすることができます。EDIT 機能を使うには:

1. リストでポートネームを編集したいポートを選択してください。
2. 画面で F2:EDIT をクリックするか、キーボードで[F2]を押してください。
3. ポートネームを新規作成、または編集または削除してください。ポートネームは最大英数 15 文字で、以下の文字が使用できます。
英数字(a~z、0~9)
記号(+、-、/、コロン、ピリオド、スペース)
大文字・小文字は区別されません。OSD メニュー中ではすべて大文字で表示されます。
4. 編集が終わったら、[Enter]キーを押して確定してください。編集をキャンセルして終了するには、[Esc]キーを押してください。

F3 LIST

この機能を用いて、OSD がメインメニューで表示するポートの範囲を設定できます。OSD ファンクションの多くは、メインメニューでリスト表示されているポートだけを操作します。サブメニューの設定項目の詳細は下表をご参照ください。

設 定	内 容
ALL	設置されているポート全てをリストアップします。
QVIEW	クイックビューポート(p.37 参照)として選択されたポートをリストアップします。
POWERED ON	接続されているコンピュータの電源がオンになっているポートをリストアップします。
POWERED ON + QUICK VIEW	クイックビューポート(p.37 参照)として選択され、かつ接続されているコンピュータの電源がオンになっているポートをリストアップします。
NAME	ポート名称が与えられているポートのみ表示します。詳細は P.37 の F2:EDIT をご参照ください

選択したいポートを OSD 画面上でダブルクリックするか、メニューのハイライトバーを移動して [Enter] キーを押してください。アイコンが表示され、現在選択している設定が表示されます。

-
- 注意:**
1. リスト表示のポートをダブルクリックするか、ハイライトバーを上下キーで移動させて [Enter] キーを押すと選択できます。
 2. 選択したポートにコンピュータが接続されていない、または接続されたコンピュータの電源がオフになっている場合は、コンソールはブランク(無表示)になります。この場合は OSD 呼び出し操作を行って、他のポートに切り替えてください。
-

F4 SCAN

スキャン機能では手動で切り替え作業をすることなく、稼働中のコンピュータを一定の間隔で自動切り替え、監視することができます。オートスキャン時に表示するコンピュータは、スキャンモード設定の F6 SET (詳細は、p.37 参照)で選択します。オートスキャンモードの解除は[Space] キーもしくは[Esc]キーを押してください。

- ◆ コンピュータが接続されていないポートやコンピュータの電源がオフになっているポートにアクセスしているときは、画面がブランク表示になります。
- ◆ オートスキャンモード中にアクセスされているポートは、画面上のポート ID の前に[S]マークが表示されています。
- ◆ 他のユーザーがログインしていて任意のポートにアクセスして使用中であるとき、オートスキャンがそのポートにアクセスすると、[R]マークが表示されます。
- ◆ プライベートモードに設定されたポートにオートスキャンでアクセスした場合、[P]マークが表示されます。画面はブランク表示になります。
- ◆ 他のユーザーがログインしていて任意のポートにアクセスしているが入力操作が行われていないとき、そのユーザーの画面にはタイムアウトまでのカウントダウンが表示されています。オートスキャンがこの状態のポートにアクセスすると、[Z]マークが表示されます。

F5 ADM

F5 ADM はアドミニストレーターのみが使用できる機能です。この機能により、アドミニストレーターはOSDの操作全体を設定・管理できます。設定を変更するには、画面で「F5 ADM」をダブルクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使ってハイライトバーを設定したい項目まで移動させ、[Enter]を押します。

- 注意:**
1. アドミニストレーターとしての競合を避けるため、1～4の各コンソールは、それぞれ1～4のポートに対する優先権を持っています。
 2. F5 ADM 機能は、アドミニストレーターのみが使える機能ですが、一人のアドミニストレーターが KVM にログインしてこの機能を使用している時、他のコンソールで他のアドミニストレーターがログインしても、この機能にアクセスすることはできません。

項目選択後、F5 ADM ファンクションのサブメニューが表示されます。選択したいものをダブルクリックするか、または、ハイライトバーをそこまで動かした後、[Enter]を押します。選択する前に、アイコンが表示されます。設定方法は下表をご参照ください。

設 定	機 能
SET PASSWORD	<p>この機能でアドミニストレーターおよびユーザーのパスワードを設定します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. アドミニストレーター1人およびユーザー4人のパスワードを設定します。2. ユーザーフィールドまたはアドミニストレーターフィールドのうち、1つを選択した後、パスワードを入力する画面が表示されます。パスワードは英数字(A～Z, 0～9)最大8文字までの組み合わせが可能です。3. パスワードを入力しパスワードを確定した後、[Enter]キーを押します。4. 確認のためもう一度パスワードを入力して、[Enter]キーを押します。5. 以前のパスワードを修正・消去する場合は、文字と数字を、[Backspace]キーを用いて消してください。6. アドミニストレーターがユーザーのパスワードを編集する場合、最初にアドミニストレーターのパスワードを入力する必要があります。
SET ACCESSIBLE PORTS	<p>アドミニストレーターはこの機能でポートごとにユーザーのアクセス権を決定できます。各ユーザーに対し対象ポートを選び、その後、[Space]キーを押して、ON(フルアクセス)、OFF(アクセス権なし)を設定してください。全てのポートに対しこの作業を繰り返してください。設定が終わったら[Esc]キーを押します。</p>

(表は次ページに続きます)

(F5 ADM の続き)

設 定	機 能
SET MULTIUSER MODE	<p>この機能は、同じユーザーID で複数のコンソールから KVM スイッチに多重ログインできるかどうかを決定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Disabled に設定すると、同じユーザーID で多重ログインできません。Enabled (デフォルト設定) にすると、同じユーザーID で多重ログインすることができます。 2. Enabled 設定では、F4 SCAN、F6 SET、F7 QV 設定が同様に反映されます。 3. 多重ログインしている際に F4 SCAN、F6 SET、F7 QV 設定を変更すると、同じ ID でログインしているユーザーに同様に反映されます。
SET ACCSESS TIMEOUT	<p>この機能は、ユーザーが任意のポートにログインした後、そのポートに対する操作権限を保持している時間を設定します。任意のポートにログインしたユーザーは、一定時間操作を行わないとキーボード/マウスの操作権限をリリースし、他のユーザーがそのポートのキーボード/マウス操作が行えるようになります。</p> <p>有効な設定値は 2~255(秒)です。設定値を入力した後、[Enter]キーを押して反映させてください。0を入力するとこの機能をオフにします(操作権限がリリースされない)。デフォルトは 10 秒です。</p>
CLEAR THE NAME LIST	<p>この機能は RESTORE DEFAULT VALUES とよく似ていますが、異なる点は変更された設定すべてをデフォルト値に戻すとともに、ポートネーム設定も削除します。</p>
RESTORE DEFAULT VALUES	<p>この機能は、ポート識別を補助するポートネームの設定を除く、すべての変更を工場出荷時のデフォルト値に戻します。</p>
RELEASE ALL VALUES	<p>プライベートモード(P.37 参照)に設定されている全てのポートを開放し、他のユーザーがアクセスできるようにします。</p>

(表は次ページに続きます)

(F5 ADM の続き)

設 定	機 能
SET LOGOUT TIMEOUT	<p>この機能で設定された時間、コンソールからの入力がない場合にそのオペレータは自動的にログアウトされます。コンソールを再び使用する前には、KVM へのログインが必要となります。</p> <p>この機能はオペレータがもうコンピュータにアクセスする必要がなくなったのにログアウトをするのを忘れた場合、他のオペレータがそのコンピュータにアクセスできるようにするものです。タイムアウトの値を設定するには、1～255 分までの数値を入力し、[Enter]キーを押します。0 分で設定するとこの機能を使用不可にします。デフォルトは 5(無効)です。</p>

F6 SET

この機能はログイン時の環境設定を行います。それぞれのユーザーの各プロファイルは KVM スイッチ内に保存され、各ユーザーのログイン時に反映されます。

設定を変更される場合は以下の手順で作業してください。

1. 「F6 SET」の項目をダブルクリック、もしくはハイライトバーをこの項目へ移動させ[Enter]キーを押してください。
2. [Esc]キーを押してください。

表示されたサブメニューの変更したい項目をダブルクリック、もしくはハイライトバーを移動して[Enter]キーを押します。アイコンは、現在選択されている項目を表示しています。設定項目についての説明は下表をご参照ください。

設 定	機 能
OSD ACTIVATING HOTKEY	OSD メインメニューを呼び出すホットキーを設定します。 [Ctrl] 2 度押し または [Scroll Lock] 2 度押し デフォルトは[Ctrl]キー 2 度押しになっています。
CHANNEL DISPLAY MODE	ポート ID 表示方法を選択します。ポート番号とポートネームの組み合わせ (PN + NAME)、ポート番号のみ (PN)、ポートネームのみ (NAME) があります。
CHANNEL DISPLAY DURATION	ポート切替が行われた後、画面にポート ID を表示する時間を設定します。 User Defined: ユーザー設定 (1~255 秒間) Always On: ポート ID を常に表示 User Defined を選択した場合は、秒数を入力しその後[Enter]キーを押してください。デフォルトでは 3 秒間 です。0 を選択すると、この機能を無効にします。

(F6 SET の表、続き)

設 定	機 能
SCAN MODE	<p>オートスキャンモードで、どのコンピュータにアクセスするかを選択します。設定は、以下の 6 種類があります。</p> <p>ALL — そのユーザーがアクセスできるすべてのポート</p> <p>QVIEW — そのユーザーがアクセス可能かつクイックビューポートとして設定されたポート(p.37 をご参照ください)のみ</p> <p>POWERED ON — そのユーザーがアクセス可能かつ接続されているコンピュータの電源がオンになっているポートのみ</p> <p>POWERED ON+QVIEW — そのユーザーがアクセス可能かつクイックビューポートとして設定され、かつ接続されているコンピュータの電源がオンになっているポートのみ</p> <p>QVIEW+NAME — そのユーザーがアクセス可能かつクイックビューポートとして設定され、かつポート名前を与えられているポートのみ</p> <p>NAME — そのユーザーがアクセス可能かつポート名前を与えられているポートのみ</p>
SCAN DURATION	<p>オートスキャンモードで、各ポートに接続されたコンピュータの表示のインターバル時間を設定します。1～255 秒までの数値を入力し、その後[Enter]キーを押してください。デフォルトは 3 秒間です。0 秒で設定すると SCAN 機能を使用不可にします。</p>
PRIVATE MODE	<p>[Enter]キーを用いて、選択されているポートをプライベートモードに設定するかどうかを選択します。</p> <p>プライベートモードは、ユーザーがすでに選択しているポートに他のユーザーが入ってこようとした場合に、表示をブランクにして画面を見せず、操作もできないようにします。プライベートモードのポートに他のユーザーが入ると、画面に PRIVATE MODE: Console X(X は先に入っているユーザーのコンソール番号)というメッセージが表示されます。</p> <p>[Enter]キーで Enable(プライベートモード有効)/Disable(プライベートモード無効)を選択したら、[Esc]キーを押してメインメニューに戻ってください。</p>
RESTORE DEFAULT VALUES	<p>この機能は、ポート識別を補助するポート名前の設定を除く、すべての変更を工場出荷時のデフォルト値に戻します。</p>

(F6 SET の表、続き)

設 定	機 能
MOUSE BUTTON SETUP	マウスのボタン設定 右利き/左利きを選択します。
SET PASSWORD	<p data-bbox="488 521 1123 555">この機能はユーザーが自身のパスワードを設定します。</p> <ol data-bbox="456 566 1369 987" style="list-style-type: none"><li data-bbox="456 566 1369 651">1. すでにユーザーとしてのパスワードを持っている場合は、パスワードを入力してください。<li data-bbox="456 663 1369 748">2. パスワードを入力する画面が表示されます。パスワードは英数字(A~Z, 0~9)最大 8 文字までの組み合わせが可能です。<li data-bbox="456 759 1369 844">3. 以前のパスワードを修正・消去する場合は、文字と数字を、[Backspace]キーを用いて消してください。<li data-bbox="456 855 1369 987">4. パスワードを入力したら[Enter]キーを押してください。確認でもう一度パスワードの入力を求められるので、再度入力してから[Enter]キーを押してください。 <p data-bbox="456 1048 1369 1133">正しく入力されたらパスワードの設定が完了します。もし間違った場合は、注意して再度設定してください。</p>

F7 QV

F7 QV 機能を使うと、オートスキャンでアクセスするポートを指定することができます。QUICKVIEW ポートとして指定されたポートは、オートスキャン機能の設定で限定的にアクセスすることが可能です。リスト表示中でハイライトバーを移動させて[F7]キーを押すと、QV 選択/解除ができます。

QV 選択されたポートは、リスト表示で QV の欄にマークされます。

F8 Out

F8 Out をクリックするかキーボードで[F8]を押すと、KVM の OSD からログアウトします。ログアウトするとコンソールのモニタはブランク表示になります。この操作は[Esc]キーを押して OSD を閉じるのとは異なり、サーバを操作できるようにするためにはパスワードを入力してもう一度 KVM スイッチへログインする必要があります。

付録

製品仕様

機能		仕様
コンピュータ接続数	ダイレクト	8
	カスケード	64
コンソール接続数		4
ポート選択方法		ホットキー、OSD
コンピュータ側 コネクタ	キーボード	DB-25 ピン メス×8
	マウス	
	モニタ	
コンソール1&2側 コネクタ	キーボード	ミニ DIN 6 ピン メス×2
	マウス	ミニ DIN 6 ピン メス×2
	モニタ	D-sub 15 ピン オス×2
	マイク	ミニステレオジャック×2
	スピーカー	ミニステレオジャック×2
コンソール 3&4 側コネクタ		DB-25 ピン メス×8
スイッチ	リセットスイッチ	ピンホール型×1
LED	オンライン	オレンジ×8
	ポート選択	グリーン×8
	電源	ブルー×1
エミュレーション	キーボード	PS/2 & AT
	マウス	PS/2 & シリアル
VGA 解像度		最大 1,920×1,440; DDC2B 準拠
電源仕様、消費電力		DC 9V(電源アダプタ)、7.2W
動作環境	動作温度	5~40℃
	保管温度	-20~60℃
	湿度	0~80% RH 結露なきこと
ケース材料		メタル
重量		4.2kg
サイズ(W×D×H)		43.35×25.42×4.4cm (19 インチラック 1U)

OSD ファンクション工場出荷時設定

設 定	機 能
MULTIUSER MODE	Enabled
ACCESS TIMEOUT	10 秒
OSD HOTKEY	[Ctrl] 2 度押し
DISPLAY MODE	ポート番号+ポートネーム
DISPLAY DURATION	3 秒
SCAN DURATION	3 秒

起動時のセルフテスト

KVM スイッチに電源を投入したとき、起動時セルフテストが行われます。何らかの問題がある場合には、ポート LED 1~4 が下記のような表示になります。

点灯パターン	内容
オンライン LED 1~8 が同時に点滅する	内部 RAM エラー
奇数ポートのオンライン LED、偶数ポートのオンライン LED が交互に点滅する	外部 RAM エラー
オンライン LED の 1 と 2、3 と 4、5 と 6、7 と 8 がペアで交互にフラッシュする	ROM テストエラー

もし上記のような症状が出た場合は KVM スイッチを再起動してください。回復しない場合は、製品を購入した販売店までご相談ください。

トラブルシューティング

症状	考えられる原因	対処
キーボードやマウスが反応しない	コンピュータと KVM スイッチの接続に異常がある	<p>KVM スイッチのオンライン LED が点灯しているか確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの電源がオンになっているか確認してください。 2. KVM ケーブルの接続を確認してください。
	キーボードやマウスのリセットが必要	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンソールのキーボード・マウスを KVM スイッチから抜き差ししてみてください。 2. ピンのような細いもので、KVM スイッチフロントパネルのリセットボタンを押してキーボード/マウスリセットの操作を行ってください。